

眞宗東派

『大谷派儀式概要』

HPで全文公開へ

嵯峨の本願寺は、僧侶養成のテキストとして用いている『大谷派儀式概要』（1953年初版）

の全文を近日中にホームページで公開する。出版から70年以上が経過し入手困難となっていることに加え、著作権法上の問題もないことから公開を決めた。

「学びたいが教本が手に入らない」という声に応えようと、同寺では2023年にも眞宗の要義や歴史、系図などをまと

切登場しない」と報じた。

めた『眞宗概要』（1953年初版）の全文を公開している。「お東紛争」で「改革派」の宗務当局と袂を分かった同寺では現在も両書を重要な教本と位置付けている。

大谷派が1989年に刊行した『浄土の眞宗―眞宗概要』（東本願寺出版刊）は「教科書編纂委員会」が教師養成を目的に編纂した眞宗学初学者のテキストで、基本的な要義を簡潔にまとめた内容とされる。89年3月23日付の中外日報は、索引に清沢満之の名がある一方で蓮如については「一

大谷光道法主は『眞宗の儀式―声明作法』（東本願寺出版刊）の「第二章作法概説」で「御代前（蓮如上人の前）」と記されている箇所について『御代前』は歴代を意味するのであり、蓮如上人を指すのではない。この部分だけではなく、全体に教科書としては簡潔にまとめられているが、はしよって記述されている部分も多く、なぜそうするのかを知らないまま莊厳し、儀式を行っていないか」と疑問を呈する。毎月第2火曜に開いている勉強会は、派を問わず参加を歓迎している。